

国から都道府県への協議に関する意見（案）

都道府県名： 徳島県

1. 令和 6（2024）年度シーリング案に関する意見

1) 本県は、医師の高齢化が進行し、内科の若手医師は全体の 15%程度しかおらず、地域の医師派遣ニーズにこたえられていないが、内科がシーリングの対象となっているのは必要医師数の算出方法に下記のような問題があるためだと考える。

- ① 地方県では救急医療、専門医療、地域医療を公立・公的医療機関が担っているが、民間病院と一緒に医師数を算定しているため、公立・公的医療機関での医師不足が反映されていない。
- ② 専門性に関して三師調査データを使用しているため、専門医の実態を反映できていない。特に高齢医師が多い地方県では、内科医数が実際よりも過剰にカウントされる結果となっている。
- ③ 高齢医師の臨床エフォートが高すぎる。また教育や研究エフォートが高い医学部および大学病院医師に対して臨床エフォートを高く設定しすぎている。

2) 救急や総合診療の役割も担う「内科」は、新型コロナ対応をはじめ、医療機関からのニーズが大きいため、救急科等と同様にシーリング対象外とすべきである。

3) 地方県の地域医療を維持するために、複数の地方県にまたがるプログラムに対して定員数の加算を行うべきである。五都府県（東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県）と地方県にまたがるプログラムに対して定員数の加算を行うと、むしろ五都府県に医師が集中してしまい地方に医師が定着しない。

2. 令和 7（2025）年度以降に向けて検討中の子育て支援加算に関する意見

専門研修と子育ての時期が重なるケースが多いと思われることから、この加算は重要であるが、医師の地域偏在を助長する恐れもあることから、導入する場合は、その実績についてモニタリングと検証が必要である。

3. その他の意見

シーリング対象を全国都道府県へ拡大した結果、五都府県の専攻医数は増加～横ばいである一方で、四国等の地方県の専攻医数が顕著に減少し、地域医療に支障を来している。

本県は、指導医となる 40 歳代の中堅医師数が少ない上、さらに若手医師の採用減が続くことで、その世代が、各々のサブスペシャリティ領域を取得する数年後には、内科指導体制及び地域医療体制が崩壊するのではないかと危惧している。

※ 2023 年度の初期臨床研修プログラム登録人数 47 人（県内大学新卒 115 人の約 40%）

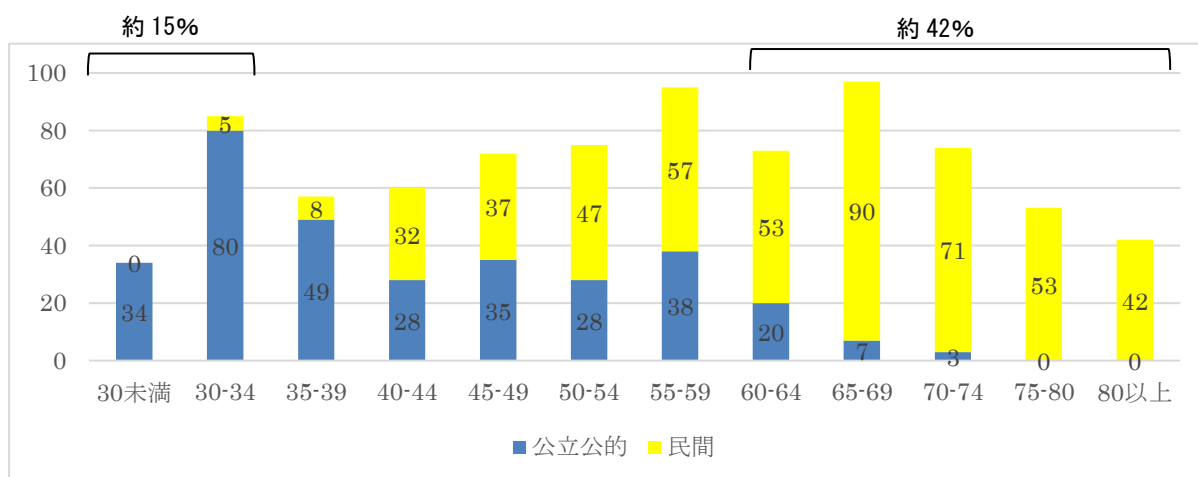
※ 2023 年度の内科専攻医数 9 人（シーリング対象前の 2019 年度は 24 人）

シーリング制度は、大都市部への偏在、診療科偏在の改善のためには必要であると考え
るが、全体の医師偏在を主に若手医師の数で調整しようとする現在のシーリング方法で
は、地域医療の実態と乖離している。

シーリングの算定に当たっては、下記の要素を考慮するなど、地域の実情が十分反映
されたものとするべきである。

- ① 高齢医師などは、夜勤を担えないことも多いため、労働の質を考慮していない必
要医師数では、徳島県の救急医療等を維持することが困難である。そこで、必要
医師数の算定では、「夜勤を担う医師」と「それ以外の医師」との構成比で補正す
る、といった考慮が必要である。
- ② 地方は、人口密度が低く、かつ、交通機関が不便な地域が多いため、アクセス面
を考慮していない必要医師数では、徳島県のへき地医療等を維持することが困難
である。そこで、必要医師数の算定では、「面積あたり医師数」で補正する、と
いった考慮が必要である。
- ③ 医師の平均年齢が全国3位である徳島県では、地域医療の担い手である内科医師
のうち、60歳以上の割合が約42%と高く、そのうち約91%が民間病院・診療所に
集中し、多くが開業医として従事している。（下記図参照）
これに対し、救急医療や高度医療を担う基幹病院である公立・公的病院の内科医
師は、35才未満の割合が約15%と、比較的少ない若手医師により、基幹病院が支
えられている。

【徳島県の公立・公的病院及び民間医師の状況（内科）】



個別のプログラムに関する意見

都道府県名：徳島県
基幹施設名：
診療科領域名：
プログラム名：

1. プログラムの連携施設及びローテーションの設定に関する意見

徳島大学病院（内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、救急科、総合診療）、徳島県立中央病院（内科、救急科、総合診療）、徳島市民病院（産婦人科）、徳島赤十字病院（内科、救急科）、徳島健生病院（総合診療）、つるぎ町立半田病院（総合診療）

医師少数区域に配慮されている。

徳島大学病院（精神科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科）、徳島県立中央病院（精神科）、徳島赤十字病院（整形外科）、徳島県立海部病院（総合診療）

県内の複数の医療機関が連携施設となっており、偏在対策に資するものである。

2. プログラムの採用人数に関する意見

徳島大学病院（内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、救急科、総合診療）、徳島県立中央病院（内科、救急科、総合診療）、徳島市民病院（産婦人科）、徳島赤十字病院（内科、救急科）、徳島健生病院（総合診療）、つるぎ町立半田病院（総合診療）

医師少数区域に配慮されている。

徳島大学病院（精神科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科）、徳島県立中央病院（精神科）、徳島赤十字病院（整形外科）、徳島県立海部病院（総合診療）

県内の複数の医療機関が連携施設となっており、偏在対策に資するものである。

3. プログラムの廃止に関する意見（該当する場合のみ）

特になし

4. 地域枠医師等への配慮に関する意見

徳島大学病院（内科、精神科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理、救急科、形成外科、リハビリテーション科）

地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（小児科）

カリキュラム制による研修が可能であるとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（外科）

専門研修と業務従事を両立できる研修パターンが提示されているとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（泌尿器科）

地域枠の義務年限を前提とした地域医療枠コースが設置されているとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（脳神経外科）

地域診療専念などの理由により、専攻医・統括責任者の判断により休止・中断が可能であるとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（麻酔科）

卒業後に課せられた義務を果たすためにプログラムの2年以上の休止を特例として認めるとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

徳島大学病院（総合診療）

地域枠や自治医大卒業生の研修の受入れ先であることを勘案して基本定員が2名のところを5名に定める配慮がなされているとともに地域枠が業務従事する条件となっている医療機関が研修病院群に含まれている。

5. その他の意見

特になし

※ 本別紙2の内容の日本専門医機構及び関係基本領域学会への提供希望
希望する ・ 希望しない

各診療領域のプログラムに共通する意見

都道府県名：徳島県

診療科領域名：_____

1. 複数の基幹施設設置に関する意見（内科、小児科、精神科、外科、整形外科、産婦人科及び麻酔科のみ）

〈小児科〉

県内に複数の基幹施設を置くことになっているが、二次医療圏を含め小児医療が必要とされる医療機関は連携施設として網羅されており、研修内容の質の担保及び指導医の効率的な配分といった観点から基幹施設は単一であることが望ましい。

〈外科〉

県内に複数の基幹施設を置くことになっているが、県内の外科関係者によって施設・地域を越えた繋がりを構築しており、県を挙げた連携体制による若手医師の育成を図るため、基幹施設は単一であることが望ましい。

〈産婦人科〉

徳島市民病院が基幹施設の要件を満たさず暫定許可となっているため、2024年度に新規募集できるのは徳島大学病院基幹型プログラムのみとなっているが、徳島市民病院は次回の基幹施設の審査までに要件を満たし、2025年度からは再び新規募集が可能となる見込みであるため、地域医療において特に支障はない。

〈麻酔科〉

麻酔科医が必要とされる医療機関は連携施設として網羅されており、研修内容の質の担保及び指導医の効率的な配分といった観点から基幹施設は単一であることが望ましい。

2. 診療科別の定員配置に関する意見

徳島大学病院（内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、救急科、総合診療）、徳島県立中央病院（内科、救急科、総合診療）、徳島市民病院（産婦人科）、徳島赤十字病院（内科、救急科）、徳島健生病院（総合診療）、つるぎ町立半田病院（総合診療）

医師少数区域に配慮されている。

徳島大学病院（精神科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科）、徳島県立中央病院（精神科）、徳島赤十字病院（整形外科）、徳島県立海部病院（総合診療）

県内の複数の医療機関が連携施設となっており、偏在対策に資するものである。

3. その他の意見

特になし

※ 本別紙3の内容の日本専門医機構及び関係基本領域学会への提供希望

希望する ・ 希望しない